

愛媛シルク、未来シルク、新たな挑戦

ユナイテッドシルク株式会社 代表取締役 河合 崇

はじめに

愛媛県における養蚕業は明治以降近代化を支える基盤企業として、国内のみならず世界を舞台に発展してきたが、近年、養蚕農家の高齢化、収入の落ち込み等の問題を抱え、愛媛県におけるシルク産業は衰退の一途を辿っている。

こうした中、公益財団法人えひめ産業振興財団とユナイテッドシルク株式会社等が中心となり、シルクを有効かつ多角的に活用する新しいシルク産業の創出を目指し、平成 31 年 1 月に産学官の連携団体である「愛媛シルク協議会」を設置した。

「愛媛シルク協議会」は、県内において繭の生産から加工、関連商品の開発・製造及び販売までを一貫して行える体制を構築し、産学官連携のもとシルクの多方面の活用方法を見出すことにより、新たなシルク産業を創出することを目的として、活動している。



愛媛シルク協議会運営体制図

1. 愛媛シルク

こうした中、ユナイテッドシルク株式会社では、平成 30 年度及び令和元年度に四国経済産業局の委託事業を受託した公益財団法人えひめ産業振興財団の支援を受け、シルク加工施設整備に向けた検討や企業間連携等によるシルク活用製品開発等の取り組みを進めてきた。

そして、令和 2 年度から 3 年度にかけては、公益財団法人えひめ産業振興財団が全国商工会連合会の共同・協業販路開拓支援補助金を活用し、シルク関連商品の開発支援や、愛媛シルクの情報発信等を行う事業の主要部分を受託するとともに、以下の取り組みに協力してきた。

(1) マーケティング拠点の設置

松山城の登山口で観光客が多く訪れる、松山市のロープウェー商店街に、マーケティング拠点「愛媛シルクショールーム」を設置した。

ユナイテッドシルク株式会社は、受託事業者として、マーケティング拠点の整備及び企画運営を実施した。

「愛媛シルクショールーム」では、シルク関連製品の展示・販売を継続的に実施し、シルクについての消費者の声を聞き、消費者ニーズに対応した商品開発を進めるための拠点である。

また、本拠点にシルク製品のレセプション機能を付与し、商品紹介、受発注、参画企業の獲得等を併せて行うことにより、販路拡大と地域ブランドの確立に寄与する。

店内には、約 500 本の「媛ひのき」（県産材）を贅沢に使用し、養蚕の蚕室をイメージした、繭に包まれたような、心地よい空間でゆったりとシルク商品の魅力を感じながら、購入できる空間とした。



(2) 愛媛シルクのブランディング

「愛媛シルク」をブランド化して展開できるよう、愛媛シルクの背景を可視化したグラフィックデザインを開発し、「愛媛シルクシンボルマーク」として制定した。

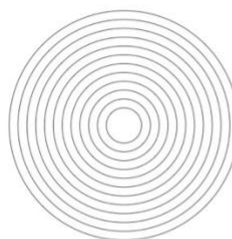
このシンボルマークは、参画事業者が開発した愛媛シルクを使用した商品を販売又は販売促進のための広告物等を作成する場合に使用することができる。

SYMBOL DESIGN | CONCEPT



SILK COCOON

お蚕様が創り出す造形美。
繭型に敬意をはらう。
「愛媛シルク」の一連の活動のシンボルとして、
2021年。いよいよここ愛媛から、
未来へ繋ぐ波動がはじまる。



12 LINES

年月、時間の基準。
星座は、12星座。
干支も十二支。
私たちの生活、曆に最も深い関係を持つ
12本のラインが未来へ誘います。

SYMBOL & LOGO HASHTAG

SNS時代のソーシャルコミュニケーションアイコン。

#ハッシュタグをロゴにしよう。

みんなで繋がり、みんなで抜げる #愛媛シルク #未来シルク



#愛媛シルク

#未来シルク

(3) 愛媛シルクポータルサイトの開設

愛媛シルクの歴史、「伝統と革新」、愛媛シルクの魅力について、情報発信を行うサイトを構築した。



EHIME SILK STORY

5000年もの歴史をもつ養蚕。

かつて日本は、世界の生糸生産国でした。

美しい光沢と繊細な肌触りをもつ天然素材のシルクは

明治・大正時代の基幹産業として日本の近代化を支えてきたのです。

愛媛県もまた、シルク産業の中核を担う土地です。

愛媛で作られる「伊予生糸（いよいと）」は

ふんわりしなやかでコシのある最高級の品質として

古くから皇室や伊勢神宮の式年遷宮の御料糸に献納されてきました。

現在、国内シルク需要の減少や養蚕農家の高齢化など様々な時代背景から、

国産のシルクは姿を消しつつあります。

一方で、シルクを従来の繊維素材としてのみならず医療、食品、化粧品など

多分野を横断したバイオマテリアル（生体材料）と捉えた研究が推進され、

多くの期待が寄せられています。

シルクを通じた営みには、日本の伝統と技術、

そして新たな可能性が詰まっています。

私たちは、シルクの物語を未来につなげたい。

その思いを胸に、2018年に愛媛シルク協議会を立ち上げました。

愛媛シルクの合言葉は、伝統と革新です。

シルク産業の活性化や、生産体制の構築、

地域を巻き込むコミュニティづくり、SDGsの達成など

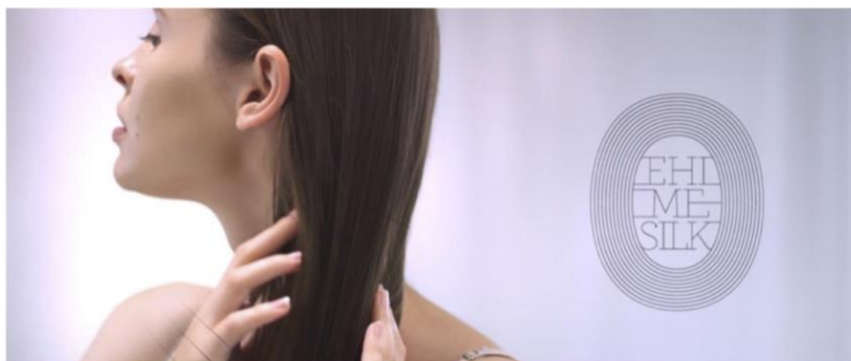
多角的な価値創出に挑戦します。

ここ愛媛から、多様なパートナーシップで、

シルクで地域共創、ベストプラクティスを創り、未来を創造します。

(4) 愛媛シルクの魅力を伝える動画の制作

愛媛県の豊かな自然を背景に、かつて基幹産業であった養蚕業の歴史、現在のシルク事業の取組等を紹介し、地域ブランド構築に向け、愛媛シルクの魅力を伝える動画を作成した。



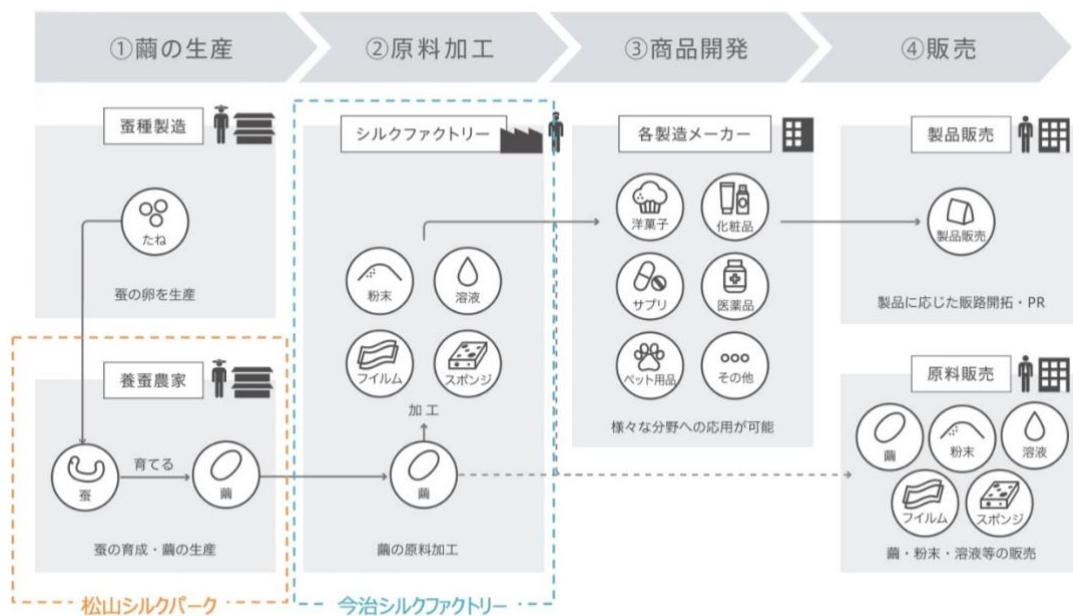
2. 未来シルク、新たな挑戦

愛媛県にはシルク産業の基盤として重要な「蚕種製造」「養蚕」「製糸」の施設が現存する、国内でも有数の産業基盤を備えている地域である。

ユナイテッドシルクでは、2016年の創業期より、「愛媛シルクプロジェクト」として県内シルク産業の活性化に向けた取り組みを行ってきたが、地域の競争力をさらに高めるため、繭の生産から加工、商品開発・製造、販売までを一貫して行える体制の構築を目指し、2020年度には、シルクを水溶液化、粉末化する「今治シルクファクトリー」を愛媛県今治市に整備した。

また、2021年度には、スマート養蚕技術を導入した「松山シルクパーク」を愛媛県松山市に建設予定であり、川上から川下までの製造システムを構築することができる。

シルクは様々な用途での利用が可能な未来のバイオマテリアルであり、幅広い業態の事業者とネットワークを組むことができる。シルクを核とした新しい産業を形成し、地域経済に貢献することが我々の掲げるビジョンである。

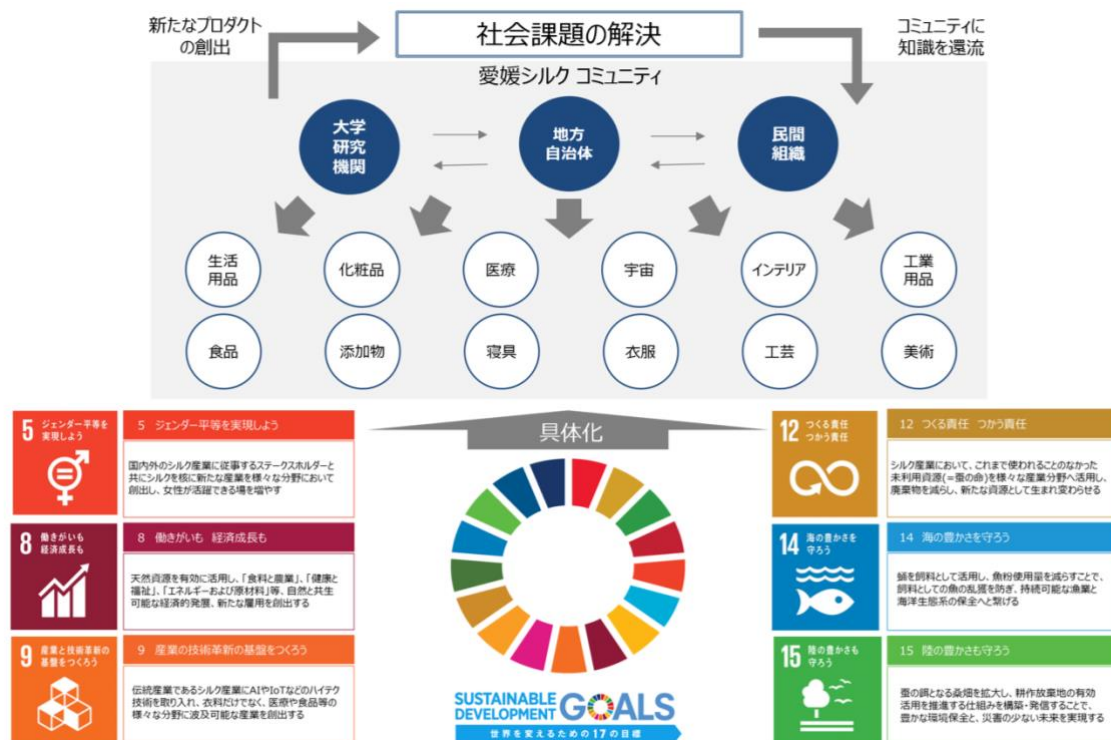


愛媛県内での繭の生産から加工、商品開発、販売までの流れ

3. おわりに

今後、ユナイテッドシルク株式会社では、「愛媛シルク」の地域団体商標の取得に向け、持続可能な取り組みを実践するために、活動を強化していきたい。

また、内閣府が推進する「地域バイオコミュニティ」として、「愛媛シルクバイオコミュニティ」の形成を行い、全国の地域バイオコミュニティとの連携を図りたい。



愛媛シルクと SDGs